

# かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 5 No 03

4 4 号

平成9年 3月 1日

発行 かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.ifnet.or.jp/kazu.k/>

## チャイルドシートを考える

院長

今回は、マスコミで時々話題になるチャイルドシートについて考えてみましょう。お母さんたちの中で、子供を自動車に乗せるときチャイルドシートを使っている人はどのくらいいるのでしょうか？

若い頃僕もそうだったように、何の根拠もないのに大丈夫と思っているのではないのでしょうか？事故を起こさなければ大丈夫なのは当たり前です。起こしてはじめてわかることですが、起こしてからでは遅すぎるのです。

最近の自動車クラッシュゾーンが確保されたり、エアバッグが装着されたり、シートベルトと安全性は向上されています。もちろんエアバッグが装着されていれば、シートベルトが無くても安全などと思てはいないでしょう。エアバッグでさえシートベルトの補助的な役割でしかないのです。それはすべて、大人のための安全装置なのです。

身長が低ければシートベルトとエアバッグさえ役に立たないと言われています。子供の場合は大人と違った安全対策がなされるべきで、その一つがチャイルドシートです。子供がフロントガラスやダッシュボードに激突することが大きな問題で、後席にいれば大丈夫というものではありません。衝突の際にはどのくらいの力がかかるのでしょうか？お母さんたちが子供を捕まえているだけで大丈夫なのでしょう？確かに最近の女の人は強くなり、主婦はもっと強いに違いありません（ごめんなさい）。でもそれで支えることができるのでしょうか？10Kgの子供を抱いて時速50Kmで衝突した場合、その腕には何と300Kgの力がかかると言われています。火事場の何とか力という言葉がありますが、300Kgを支えることは不可能です。そんな危険を承知で、助手席で子供を抱いていたり、広い後席で遊ばせたりするはずはありません。しかし起こるまでわからないのが、事故なのです。

日本での場合のチャイルドシートの装着率はどのくらいなのでしょう？1994年データ（JAF調べ）では、何と

わずかに7.7%です。つまり10人に1人も装着していないことになります。これを読んでいるお母さんたちではいかがでしょうか？外国を例にあげると法律で義務づけているところがたくさんあり、産院からの退院の時に義務づけられている国があるほどです。ちなみにアメリカでの装着率は83%で、全部の州で義務とされています。

使い方にも一言。エアバッグとの併用で問題がおきることがあり、原則としては後席で使用するものです。向きにも注意して、年齢にあったものを使いましょう。

日本での装着率の低さの原因は一体なぜなのでしょう？一つはチャイルドシートの値段の違いです。日本での価格は20000～50000円と高価なのに対し、アメリカでは7000～20000円程度になっています。これはどここの問題があるのでしょうか？メーカーの利益、規制（国内とアメリカの差）も関係しているかも知れません。もう一つは行政の対応でしょう、義務化しているのは先進国です、先進国を自負しながら義務化できない理由は何となるという疑いとなってしまいます。しかし最も大きな理由は、保護者の意識としか言いようがありません。やはり根拠も無く“うちに限って大丈夫”と思っていることが大きな原因だと思います。

確かに値段は高いものかも知れません。比較とするものは何よりも価値がある子供の命です。この際思いきって、購入を考えてみてはいかがでしょう？

出来れば、チャイルドシートの再利用も考えてみてください。大きくなれば使わなくなるものです（もちろん次の子には使えますが）。使わなくなったら、他の人に譲ってはいかがでしょう？当院を窓口にしても結構です。出来ればこういう活動も行っていきたいと思います。御協力おねがいします。



## 3月のお知らせ

3月4日（火）は、1才6カ月健診のため  
14:00～16:30 休診です  
当日の健診・予防接種はありません。



## ポリオ予防接種のお知らせ

今から予定を立てて下さい。  
ポリオの接種が4月15日から始まります。  
対象者  
第1回目＝平成8年7月1日から12月31日生まれ乳児。  
第2回目＝平成8年10月に1回目の投与を受けた乳幼児。  
その他＝投与を延期していた生後90カ月未満の乳幼児。  
以上です。接種場所等は来月号・掲示でお知らせします。

## 読者の広場

今回は、お母さんから頂いた投書を紹介します。みんなで考えてみましょう。

「川村先生、お久しぶりです。今日は先生及びお母様方に、お聞きしたいことがあって筆をとりました。長男は1才8カ月頃から喘息になり、ひどいときには薬を飲んでも夜咳が止まらず、吸入器を使うこともしばしばでしたが、3才半頃から大分落ち着き、昨年の夏4才になったころには、予防薬も不要になり、この頃は先生のところもずいぶん御無沙汰しています。（中略）皮膚の抵抗力が弱いため、とびひや水いぼなどもあり、昨年の長男の医療費は8万円を超えました。

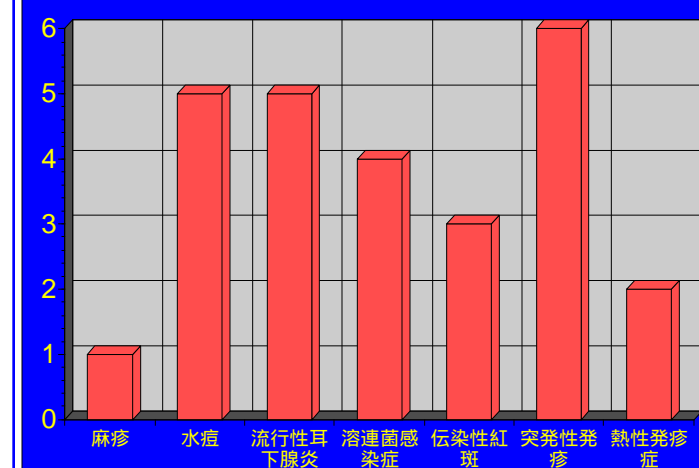
今日皆さんにお聞きしたいのは、蒲団やじゅうたんのダニをとり清浄した空気を排気する掃除機のことです。（中略）先日家に訪問販売のセールスマンがやってきて、特殊な器具を使って実際に蒲団のダニをとって見せてくれました。そして“クロワッサン”“私の赤ちゃん”等の雑誌に“私はこうしてアトピー性皮膚炎を克服した”等の欄に掲載された記事や薬を飲んでも治らない子供の家に“掃除機を持って訪問する小児科医”という新聞の切り抜きを見せられ、“う～ん、いいなあ。医療費に8万円もかかるなら、欲しいなあ”と思いました。でも価格はなかなか教えないのです。『今、キャンペーン価格だけでも高価なものだから、本当にこの掃除機の良さをわかって値段に関係なく欲しいという人にしか教えられない』というのです。そして『主人に相談しなきゃ買えないなんて言う人は、この掃除機の良さをわかっていない』と。私は即答できずにセールスマンを帰しましたが、本当はもう少しで契約しそうでした。夜主人に話すと“おまえの欲しい気持ちはわかるが、勉強不足だ。『主人に相談しなきゃ言う人には売れない』”とか『すぐその場で』というのは絶対おかしい。（中略）そういわれるとそうだなあと考え直し、何だかあの訪問販売がうさんくさく思えるのでした。

で、先生はあの“掃除機を持って訪問する小児科医”の先生を御存知ないのでしょうか。その先生はいくらぐらいで患者さんに勧めているのでしょうか。また、この掃除機の記事が掲載された雑誌をお持ちのお母さんは、いらっしゃらないのでしょうか。もしいらっしゃいましたら、その記事のコピー等を川村先生のところを通していただけませんか。」

掃除機を持って訪問する小児科医というのは聞いたことがあります。しかしその先生は、喘息などの原因となるハウスダストやダニを調べていると思います。指導としても行っていると思いますが、掃除機の販売はやっていないと思います。たまたまの記事として見せたのではないのでしょうか？しかしうさんくさい話です。そういう物があれば、とくに当院でも紹介しています。（どうも30万円以上するようです）最近、かなりフィルターが改良され国産でも同じ程度のもはあるはずだと思います。断定的なことは言えませんが、皆さんも気がつけたほうが言いかも知れません。どなたか、同じような経験又は記事等をお持ちであれば御連絡下さい。

先日の小生が小児科を選んだ理由と中米君が看護婦になった理由についての感想を寺本さんより頂きました。中米君の出産に対する温かい言葉本当にありがとございました。また院内での中米君に対する皆さんの励ましの言葉、小生にも聞こえてきます。先日のこども病院の署名700名集まりました。ありがとうございます。

## 2月の感染症の集計



溶連菌感染症と流行性耳下腺炎が、目立っています。幼稚園や保育園で、流行っているという話も聞こえてきます。麻疹が2年ぶりで見られました。流行しているという話は聞きませんが、注意して下さい。やはりかかると怖い病気です。早めの予防接種を心掛けましょう。

## 新しい看護婦さんが入りました、従来のスタッフ同様よろしくお願い致します。

はじめまして！！三沢です。  
私には、8才と5才の男の子がいます。今まで、託児所や保育所に預けながら、働いてきました。小さなことで悩んだり不安になったり、又は仕事との両立で大変な思いもしてきました。看護婦という部分だけでなく、今までの経験をいかして気軽に離れる看護婦さんを目指して、努力していきたいと思っています。よろしくお願い致します。

## 編集後記

今月もまた、字数が多く見にくく申し訳ありません。こんな投書相談も結構です、どうぞよろしくお願い致します。三沢君が入って、もう少しサービスも向上したいものです。



目次に戻る

前の号

次の号